

— 2030年 使い捨てプラスチック使用量半減に向けて — イオン×丸紅「ボトル to ボトル プロジェクト」始動

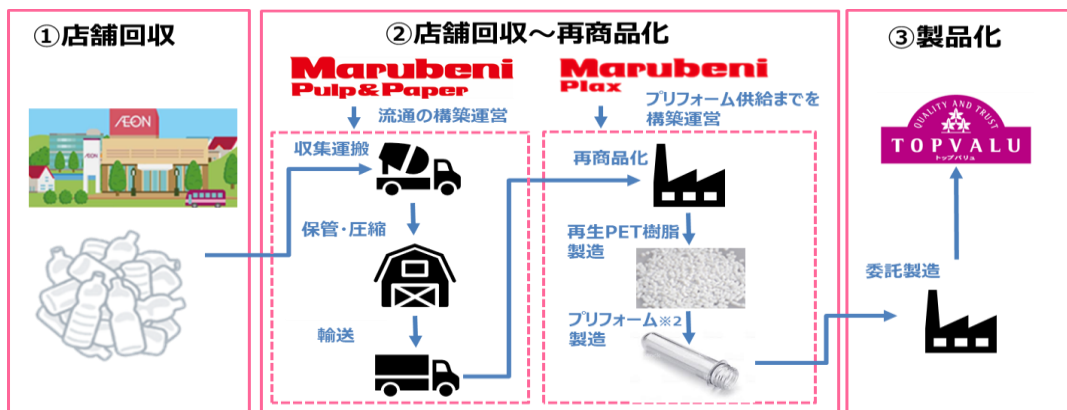
イオンと丸紅グループ（丸紅株式会社100%子会社の丸紅紙パルプ販売株式会社、および丸紅プラックス株式会社）は、イオンの店舗でお客さまから回収するペットボトルを、クローズドリサイクル※1で再商品化して資源循環体制の構築を目指す「ボトル to ボトル プロジェクト」を開始します。

イオンは、脱炭素型・資源循環型社会の実現に向けて、使い捨てプラスチックの使用量を2030年までに半減する目標を掲げています。トップバリュのすべての商品で環境・社会に配慮した素材を使用するとともに、ペットボトルに関しては100%再生または植物由来素材へ転換します。本プロジェクトは、その目標達成に向けた取り組みの柱で、ペットボトルの回収・運搬から製品化までを一元管理できる丸紅グループの幅広いネットワークと、イオンの店舗・商品・サービスを通じて、これまで店舗ごとに異なる方法で取り組んでいたペットボトルの回収、再商品化を一気通貫で行い、安定的かつ持続的な資源循環体制を目指すものです。

今年2月から、イオンリテール(株)、(株)マルエツ、マックスバリュ関東(株)、イオンマーケット(株)の4社が、関東エリアで展開する一部店舗でグループ横断的な収集運搬スキームの実験を開始し、6月にはこの実験で回収したペットボトルから生まれた再生PET樹脂を原材料に使用したペットボトル飲料をイオントップバリュ(株)が製品化、イオンの店舗で販売する予定です。2021年度中に、関東エリアで店頭回収したペットボトルを再商品化につなげる仕組みを確立し、順次全国に広げてまいります。

<「ボトル to ボトル プロジェクト」スキーム>

- ✓ 回収、収集運搬、再商品化まで流通システムを丸紅紙パルプ販売(株)が、その後のプリフォーム※2の製造・供給までを丸紅プラックス(株)が構築・運営。
- ✓ イオンの店舗で回収したペットボトルはクローズドリサイクルで再生PET樹脂となり、トップバリュの商品として製品化。



※1 クローズドリサイクル：イオンが店頭で回収したペットボトルをリサイクル樹脂に再商品化し、イオン自身の製品の原料として利用すること。

※2 プリフォーム：ペットボトルの原型。

参考

■ 循環型社会の実現に向けたイオンの取り組み

「イオン プラスチック利用方針」

イオンは、脱炭素社会の実現に向けて、持続可能なプラスチック利用に取り組みます。店舗・商品・サービスを通じて、全てのステークホルダーの皆さまとともに、脱炭素型かつ資源循環型の新たなライフスタイルの定着を進めて参ります。

1. 事業活動における資源の無駄使いや使い捨て型の利用を見直し、使い捨てプラスチックゼロを目指します。
2. 必要なプラスチックは化石由来から環境・社会へ配慮した素材へ転換します。
3. 店舗を拠点に使用済プラスチックの回収・再利用・再生する資源循環モデルを構築し、お客さまとともに持続可能な資源利用に取り組みます。

<目標> 2050年 CO2排出量ゼロの持続可能なプラスチック利用を目指し、

- ◆ 2030年までに、使い捨てプラスチック使用量を2018年比で半減します。
- ◆ 2030年までに、全てのPB商品で環境・社会に配慮した素材を使用します。
- ◆ 2030年までに、PB商品のPETボトルを100%再生又は植物由来素材へ転換します。

■ 「トップバリュ」環境配慮型商品の一例

再生プラスチックを使用



飲料用ペットボトルをリサイクルしたメカニカルペット素材を容器に100%使用

パッケージを紙に



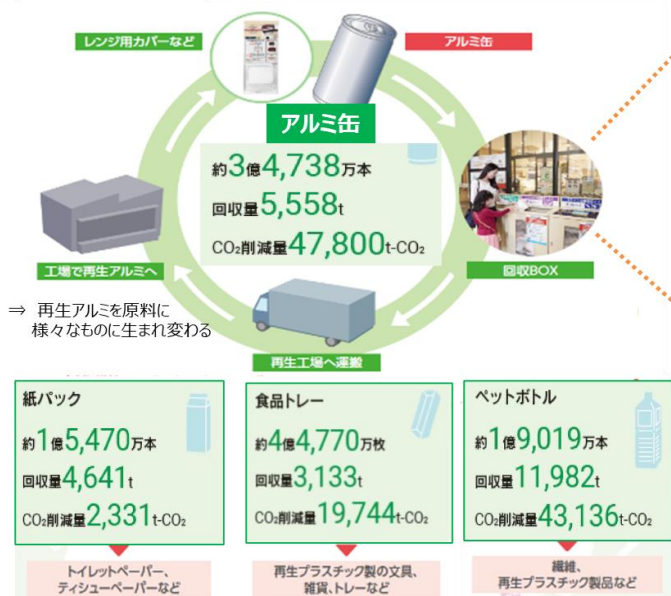
包材の一部を紙に置き換え、かつ計量スプーンをなくすことで、包材で使用するプラスチックを削減

省資源・小型化



トイレットペーパー1ロールあたりの長さを従来の1.5倍にしてロール数を減らし、包材で使用するプラスチックを削減

■ 店頭での資源回収



※全国390箇所に導入（2020年5月）

2019年度実績（連結子会社25社計）